

## 19才

彼女はソファに身を横たえながら言った  
肉付きのよい太ももをあらわにしながら  
「低俗よ」と

部屋には汗の匂いが満ち満ち  
僕は吐き気をもよおしていた  
嘗みというものに

彼女の微笑には侮蔑が含まれていた  
この僕の指先で干からびた陶酔を  
彼女はその微笑によって刺青とした

外に飛び出して夜気を何度吸い込んでも  
内臓が口から飛び出しそうな気がして  
冷や汗が次々に噴出して頬を流れていった

既に生を絶つことも不可能だった  
全ては遅すぎたのだ  
ああ、どうして今更、生の所有権を主張できよう

僕には笑うことだけが許された  
それにさえ条件が付されていた  
「大声で」という・・・

(1992.1.19)